

令和2年8月6日

株式会社産業経済新聞社 代表取締役社長 飯塚 浩彦 殿

文部科学省初等中等教育局長
灌 本 寛

貴社が報道した「週刊アサヒ芸能」の記事について

貴社は、週刊アサヒ芸能（7月30日号）掲載記事を引用した記事を複数掲載しています。特に「教科書調査官と北朝鮮の闇」と題する論説委員長の「風を読む」（7月28日）においては、『北朝鮮スパイ』と疑われた人物を調査しなくていいのかなどと、週刊誌記事の内容が事実であるとの前提の論説記事を掲載しています。しかし、本省の調査の結果、週刊誌記事内容は事実であることを確認できませんでした。

また、「風を読む」における当該教科書調査官の「専門的な学識」に関する記述も事実と異なります。

そのような記事に依拠した憶測に基づいた報道がなされ、教科書検定の公正性について疑念を生じさせるような記事を掲載したことは、誠に遺憾であり、ここに強く抗議します。

なお、徳間書店（週刊アサヒ芸能編集部）には、別添のとおり抗議を行っていることを申し添えます。

(別添)

令和2年8月6日

株式会社徳間書店 代表取締役社長 小宮 英行 殿

文部科学省初等中等教育局長
瀧本 寛

2020年7月30日号週刊アサヒ芸能「北朝鮮スパイ」リストに「文科省調査官」の衝撃の真相について

標記については、文部科学省の教科書調査官が北朝鮮のスパイであるかのような表現がなされておりますが、記事にあるような事実は確認されず、到底容認することはできません。以下の通り文部科学省の見解を申し述べ、ここに強く抗議し、記事の撤回を求めます。

記

1. 文部科学省では、教科書調査官の選考に際して、高度な専門性を有する適切な人材を確保するよう、関係学会に属する者や教科において高度な学識経験者又は当該教科の指導経験を有する者などから、幅広く複数の候補者を人選しており、書類審査、面接審査の後、省内の教科書調査官選考検討委員会における候補者の評価・検討を経て、慎重に採用の決定を行っています。
2. 記事では、文部科学省の教科書調査官に関し、
 - ・「韓国・霊山大学の講師に就任。この時、韓国内で活動する北朝鮮工作員に「スカウト」された」
 - ・「日本に帰国後、別の工作員グループに所属し、活動していると見られている。そのグループは、かつてはオウム事件などに関与し、日本転覆を図ったことがある。」とされておりますが、これらの事実（下線部）はいずれも上記1の選考の過程やその後の調査においても全く確認されておりません。
3. 記事では、調査官の中にそのような人物がいるとなると「検定が公正なものであったのかどうか、いきなり疑わしくなる。」とされておりますが、教科書検定は、教科用図書検定基準等に基づき、教科用図書検定調査審議会の学術的・専門的な審議により行われるものであって、それぞれの分野の専門家や学校現場の経験のある教員など、複数の委員の視点による厳正な審査が行われています。

また、教科書調査官は、あくまで審議のための原案を作成するにすぎず、審議会の決定には参画していません。さらに、原案作成に当たっては、複数の調査官による調査が行われており、教科書調査官が個人で作成しているものではありません。
4. こうした体制の下で行われている教科書検定の公正性について疑念を生じさせるような記事が掲載されたことは、誠に遺憾です。